



環境かわら版

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

2022年1月号 (第308号)



令和4年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールで愛知県選考作品が総裁賞と環境大臣賞を受賞しました (P5)



「チーム・豊島」の発表

「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」の成果発表会を開催しました (P6)



令和3年版環境白書を発行しました (P2)



愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた取組を推進しています。

「環境かわら版」Web ページは
こちらから



今月号とバックナンバーを掲載しています。



令和3年版環境白書を発行しました



環境白書は、愛知県の環境の状況及び環境の保全の施策をとりまとめたもので、県環境基本条例に基づき、毎年県議会に提出しています。

1971年の初刊発行以来51冊目となる「令和3年版環境白書」は、第1部「特集」として以下の内容を紹介し、第2部で「令和2年度の環境の状況と施策」を掲載しています。巻末には、環境基準等の各法令に基づく基準値等を資料編として加えています。

特集1 第5次愛知県環境基本計画…第5次愛知県環境基本計画の概要やSDGs推進フェア「SDGs AICHI EXPO」について紹介

特集2 あいち生物多様性戦略2030…あいち生物多様性戦略2030の概要や生物多様性条約を巡る動き等について紹介

＜環境白書をご覧になりたい方は＞

環境局Webページ「あいちの環境」に全文を掲載

しています。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo/0000057223.html>)



また、「愛知県県民相談・情報センター」の情報コーナー（愛知県自治センター2階）では、環境白書を1部910円で販売しています。



さかたけんじ 坂田憲治県議会議長(中)及びこんどうひろひと 近藤裕人県議会副議長(右)に岡田環境局長から報告(12月13日)

環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)

化管法に基づくPRTR制度等の対象物質が変わります



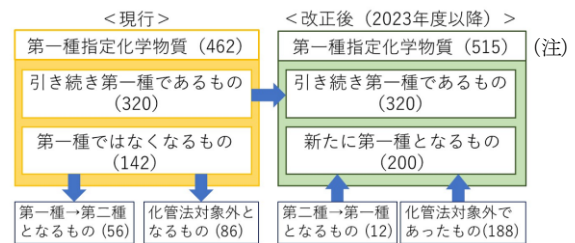
化学物質を取扱う事業者は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」に基づき、化学物質の環境への排出量等の把握及び届出(PRTR制度)並びに他者への譲渡・提供時に性状等を記載した安全データシートの提供(SDS制度)を行う必要があります。

その対象物質は、同法施行令で第一種指定化学物質(PRTR制度及びSDS制度の対象)及び第二種指定化学物質(SDS制度のみ対象)として定められていますが、これらについて、2021年10月20日に2度目の改正となる政令が公布されました(施行日は2023年4月1日)。今回の改正により、第一種指定化学物質は現行の462種から515種に、第二種指定化学物質は現行の100種から134種になります。

改正後の第一種指定化学物質は、排出量等の把握が2023年度分から、届出が2024年度から適用されます。

詳細は、下記Webページの「お知らせ」欄のほか、今後オンラインでの開催を予定している「化学物質適正管理セミナー」でもお伝えしていきます。

(<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/katsudo-ka/jigyoprtr/index.html>)



第一種指定化学物質数の変化

(注)改正後の第一種指定化学物質が520ではなく515物質となるのは、構造が類似する物質等の統合や分離があるためです。

環境活動推進課 環境影響・リスク対策グループ
電話 052-954-6212 (ダイヤルイン)

「フロン類排出抑制対策に関する講習会」の動画を配信します



フロン類は、エアコンや冷凍・冷蔵庫などの冷媒として広く使用されてきましたが、オゾン層の破壊や地球温暖化の原因となることから、使用量の削減や排出抑制が求められています。

愛知県では、関係事業者の方にフロン類の排出を抑制する取組を進めていただくため、2020年4月1日に施行されたフロン排出抑制法の改正内容を中心に、「フロン類排出抑制対策に関する講習会」の動画をオンラインで配信します。是非ご視聴ください。

1 内容

講演「フロン排出抑制法について」

講師：(一社)日本冷凍空調設備工業連合会

事務局次長 おおさわ つとむ 大沢 勉 氏

※機器ユーザー向けと関係業者（フロン類充填回収業者、工事業者等）向けの2種類の動画を視聴できます。

2 配信期間

2月1日(火)から3月30日(水)まで(予定)
※配信期間が変更になる場合があります。

3 視聴方法

以下のWebページ内からYouTube動画をご視聴ください(通信料は自己負担となります)。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/03furonkosyukai.html>)



〔 水大気環境課 大気規制グループ
電話 052-954-6456 (ダイヤルイン) 〕

「あいち森と緑づくり活動発表・交流会」を開催します



愛知県では、森と緑づくりにつながる活動や環境学習を行うNPO・ボランティア団体、市町村などに対し、「あいち森と緑づくり税」を活用した「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」による支援を行っています。

この度、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業 活動発表・交流会」を開催し、今年度支援を行った団体等による取組事例の発表や、参加者同士の情報交換などを行います。

森や緑に関する環境保全活動を実施している方、他の団体の活動を知りたい方、新たに環境活動を始めたい方など、どなたでも無料でご参加いただけますので是非お越しください。

1 日時 2月15日(火) 13:30~16:30

2 場所 愛知県西三河総合庁舎 10階 大会議室
(岡崎市明大寺本町1-4)

3 定員

150名(申込先着順)

4 申込方法

氏名、団体所属の方は団体名、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、FAX又はEメールにより環境活動推進課までお申込みください。

FAX: 052-954-6914

Eメール: kankyokatsudo@pref.aichi.lg.jp

5 申込期限

2月7日(月)

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/happyou-kouryuu.html>)



〔 環境活動推進課 調整・環境配慮行動グループ
電話 052-954-6240 (ダイヤルイン) 〕

「災害廃棄物処理図上演習」を実施しました



大規模災害が生じた際に発生する大量の廃棄物は、生活環境を悪化させるだけでなく、復旧・復興の大幅な遅れへとつながるおそれがあります。「愛知県災害廃棄物処理計画」では、愛知県、市町村及び民間事業者団体等が連携・協力して、災害廃棄物の適正かつ迅速な処理を行うこととしており、県では、11月18日、19日に県（環境局、防災安全局、県民事務所等）、市町村、一部事務組合、環境省中部地方環境事務所及び民間事業者団体（愛知県衛生事業協同組合、（一社）愛知県産業資源循環協会、（一社）愛知県環境測定分析協会、（一社）愛知県建設業協会、（一社）愛知県解体工事業協会、（一社）日本建設業連合会中部支部）の連携による災害廃棄物処理図上演習を、愛知県自治センターで実施しました。

図上演習では、グループに分かれた参加者が被災都市の廃棄物部局職員として、記録的な大雨が発生した後3日目から5日目までの3日間の想定で、時

間経過に応じた災害廃棄物処理に係る様々な課題への対応を模擬的に実践・確認しました。参加者には、住民からの要望などに対して一定時間内での判断を求め、災害時の切迫感を疑似体験してもらいました。演習を通じて、業務手順や連携体制を確認することができ、災害時の対応力の向上につながるものとなりました。



図上演習の様子

資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234（ダイヤルイン）

「エコモビリティ ライフ (エコモビ)」実践のススメ



愛知県では、クルマ（自家用車）と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分けるライフスタイル「エコモビリティ ライフ」（略称「エコモビ」）を推進しています。皆さん一人一人が、「エコモビ」を実践することによって、地球環境にやさしいだけでなく、安全で健康的な生活や、機能的で活力あるまちづくりの実現につながります。

毎月第1水曜日は「エコモビの日」です。

これをきっかけに「エコモビ」を始めてみませんか？



【**エコモビ** で、いいこと、いろいろ！】

☆CO₂削減！

1人を1km運ぶのに排出されるCO₂は、クルマと比べて電車なら約8分の1、バスなら約2分の1です！

☆継続すればダイエットに！

クルマで約25分の道のりを徒歩と電車で行く場合、カロリーの消費量は約2倍になります！*

*40歳代の男性が10kmの道のりをクルマ通勤した場合、徒歩10分、電車15分、徒歩10分で通勤した場合の比較

☆交通事故リスクの軽減や渋滞の緩和も！

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/kotsu/ecomobi/>)

知って得するエコモビ実践ガイド

エコモビ 実践

検索



都市・交通局交通対策課

エコモビリティライフ推進グループ

電話 052-954-6125（ダイヤルイン）

令和4年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールで 愛知県選考作品が総裁賞と環境大臣賞を受賞しました



「令和4年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール（主催：（公財）日本鳥類保護連盟）」において、愛知県選考作品として推薦した名古屋市立伊勝小学校6年の小宮蓮太郎さんの作品が全国1位の（公財）日本鳥類保護連盟総裁賞（以下「総裁賞」という。）を、安城市立安城北中学校2年の兼子悠花さんの作品が環境大臣賞をそれぞれ受賞しました。

愛鳥週間用ポスター原画コンクールは、次年度の愛鳥週間用ポスターの原画を全国の小・中・高等学校等の児童・生徒から募集し、優秀な作品を表彰するものです。令和4年度愛鳥週間用ポスター原画には、県内530校の小・中・高等学校等から計17,161点の作品の応募があり、本県において特に優秀と認められた30点を選考し、全国コンクールへ推薦しました。

全国コンクールでは、各都道府県から推薦のあった403点の作品について審査が行われ、本県選考作品が全国1位である総裁賞と環境大臣賞を受賞しました。

本県選考作品の総裁賞の受賞は、2013年以来8年ぶりであり、1990年の本賞の設立以降3回目となります。今回の受賞作品は、令和4年度愛鳥週間のポスターとして全国に配布されます。

総裁賞を受賞した小宮さんには、12月7日「日比谷松本楼」にて、（公財）日本鳥類保護連盟の岡本圭祐代表理事から賞状が授与されました。



総裁賞の表彰伝達式（小宮蓮太郎さん）

また、環境大臣賞を受賞した兼子さんには、12月16日に県知事公館において、大村知事から賞状の伝達が行われ、小宮さん、兼子さんが知事に受賞の喜びを報告しました。



受賞伝達式（左：小宮さん、右：兼子さん）

なお、総裁賞受賞作品の複製と県の最終選考の対象となった91点の優秀作品の原画を愛知県弥富野鳥園で2回に分けて展示する予定です。

●愛知県弥富野鳥園での展示期間（月曜日閉園）

①2022年1月8日（土）～1月23日（日）

②2022年1月29日（土）～2月13日（日）

また、優秀作品のうち、県が推薦した作品30点については、2022年5月10日から5月16日までの愛鳥週間期間中（閉庁日を除く）、県庁地下通路でも展示します（総裁賞受賞作はポスターを展示）。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/r4aicho-kekka.html>)



〔自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475（ダイヤルイン）〕

<受賞作品>

（公財）日本鳥類保護連盟総裁賞



名古屋市立伊勝小学校6年
小宮 蓮太郎さんの作品

環境大臣賞



安城市立安城北中学校2年
兼子 悠花さんの作品



「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の 成果発表会を開催しました



持続可能な未来のあいちの担い手を育成するため、大学生が研究員となり、パートナー企業からの環境課題に対して解決策を提案する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の成果発表会を開催しました。

第7期となる39名の研究員は、8チームに分かれて、8月8日の開所式以降、パートナー企業を訪問し、環境取組の現地調査や担当者とのディスカッションを行うとともに、チームミーティングを繰り返して、課題の解決策を検討してきました。

成果発表会では、各チームの研究成果の発表と併せて、研究活動の締めくくりとなる修了式と表彰式も行いました。

1 概要

日時 12月12日(日) 13:30~16:30

会場 愛知大学 名古屋キャンパス

グローバルコンベンションホール

参加者 一般参加者、関係者含む 117名

2 研究成果発表会

各チームは、8分間という短い時間の中で、創意工夫を凝らした発表を行い、審査員及びパートナー企業の代表者から講評をいただきました。



「チーム・中京テレビ」の発表

3 修了式

大村知事は研究員に対して、コロナ禍の大変厳しい状況の中での活動を労い、「持続可能な未来のあいちの担い手として活躍することを期待する」とエールを送りました。また、研究員を代表して、「チーム・中京テレビ」のしみずさくら清水咲良さんが、大村知事から修了証を受け取り、「SDGsと真正面から向き合い、アイデアを出し合い、言葉を



修了証授与

紡ぎ出し、悩み、笑い合い、励まし合った時間は、かけがえのない宝物となりました。私たちは本日まで、8チームに分かれて力を尽くしてきましたが、これからは、チーム・愛知の一員として、サスティナ研究所で培った力を発揮していきます」と感想を述べました。

4 表彰式

審査員審査による最優秀賞などの4賞と、参加者投票によるオーディエンス賞を選定し、表彰しました。なお、従来の個人参加部門に加え、今回は大学のゼミや研究室などでチームを構成する団体参加部門を設けました。

選定結果

賞	個人参加部門	団体参加部門
最優秀賞	チーム・豊島	チーム・中京テレビ
優秀賞	チーム・日本ガイシ	チーム・SALA
グッドアイデア賞	チーム・コメダ	チーム・コムファ光
SDGs賞	チーム・ホーユー	チーム・よしもと東海
オーディエンス賞	チーム・豊島	

最優秀賞には、個人参加部門から「人から人へ未来につなげるオーダーメイドギフト」を提案した「チーム・豊島」が、団体参加部門から「学校生活をアニメ化し、すべての人にSDGsを」を提案した「チーム・中京テレビ」が輝きました！



最優秀賞を受賞した2チーム

5 その他

「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo/sustasus-ken.html>)

環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)



○ 今冬の天候の見通しについて

名古屋地方気象台の3か月予報(2021年11月24日発表)によると、12月から2月にかけての気温は、平年並みか低くなる見通しです。その理由は、ラニーニャ現象の影響が、冬の終わりまで続く可能性が高いと予測されているためです。

ラニーニャ現象とは、貿易風と呼ばれる東風の変動によって、太平洋赤道域の中部から東部で海面水温が平年よりも低い状態が続く現象です。

ラニーニャ現象が発生すると、西部熱帯域の海面水温が上昇し、大気の大気対流活動が活発になり、積乱雲の発生が多くなります。この影響で日本付近では、西高東低の冬型気圧配置が強まり、気温が低くなる傾向になります。

なお、ラニーニャ現象の発生頻度や規模が、地球温暖化などの気候変動の影響を受けているかについては、現段階では統一的な結論は出ておらず、研究が進められています。



ラニーニャ現象の冬季の天候への影響

ラニーニャ現象が日本の天候へ影響を及ぼすメカニズム
(気象庁 Web ページの図をもとに作成)

○ ウォームビズの取組について【緩和策・適応策】

ウォームビズとは、過度な暖房に頼らず、衣食住における様々な工夫をして冬を快適に過ごすライフスタイルのことをいいます。

ウォームビズに取り組むことで、暖房利用によるCO₂の発生を削減することができ、地球温暖化の防止につながります。また、電気代の節約にもつながります。

今冬のウォームビズは、コロナ禍における働き方の多様化や季節外れの寒暖、地域による気候の違いを踏まえ、国は全国一律の実施期間を設定していません。個々の事情に応じて、多様で柔軟な働き方に合わせた取組が求められます。国のウォームビズでは室温の目安は20℃とされていますが、体調や暑さ寒さの感じ方等、それぞれの事情に応じた服装等に対応しつつ、3密の回避や定期的な換気などの「新しい生活様式」も意識してウォームビズに取り組みましょう。

県では、「あいち COOL CHOICE」の Web ページで、ウォームビズの取組を紹介し、推進しています。

([https://www.pref.aichi.jp/](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/coolchoice-biz.html)

[soshiki/ondanka/coolchoice-biz.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/coolchoice-biz.html))



冬は厚着で快適に

年間CO ₂ 削減量	約27kg
年間節約金額	約1,430円

あいち COOL CHOICE ~冬は厚着で快適に~

(冬の暖房は室温 20℃を目安に設定してウォームビズに取り組むことで、年間約 27kg の CO₂ が削減でき、約 1,430 円の節約になります。)

また、環境省の Web ページでも、衣・食・住のライフスタイルを見直すことに役立つウォームビズの取組事例が紹介されています。

一例として、「食」の取組では、暖まる鍋料理には、湯気による加湿効果で体感温度が上昇する効果があることや、地産地消の食材選びを通じて、流通による CO₂ 排出を削減できることなどが解説されています。是非ご活用ください。

(<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/warmbiz/>)



環境調査センター 企画情報部
気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

電動車を活用した避難所開設訓練を実施しました



愛知県では、2021年3月に「あいち自動車ゼロエミッション化加速プラン」を策定し、電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）・燃料電池自動車（FCV）の普及を促進しています。

これらの自動車の普及に向けた課題の一つとして、その魅力の一つである蓄電・給電機能が、ガソリン車等従来車のユーザーにあまり認知されていないことが挙げられます。

そこで、多くの県民の皆さんに自動車の給電機能に触れていただくため、自動車メーカー等にご協力

いただき、日進市及び蒲郡市の避難所開設訓練において、EV・PHV・FCVから避難所での使用が想定される電気機器へ、電力を供給する実践事業を実施しました。

参加者からは、「自家用車としてEV・PHV・FCVを導入すると、災害時にも日常と変わらない家電が使えるようになるのは精神的に安心感がある」、「車は単なる移動手段ではなく、防災機器として使用する時代になりつつあることが実感できた」などの感想をいただきました。



日進市の避難所開設訓練での電力供給実践



蒲郡市の避難所開設訓練での電力供給実践

実施日	実施場所	協力企業 (50音順)	電力供給した 主な電気機器	参加者
11月14日 (日)	日進市立 ^{ひがし} 東小学校 日進市立 ^{にしんひがし} 日進東中学校	トヨタモビリティ東名古屋(株)	タブレット 携帯電話 電子レンジ 電気ケトル	約50名
11月20日 (土)	蒲郡市立 ^{かたはらきた} 形原北小学校	ネットヨタ東海(株) 東愛知日産自動車(株) 三菱自動車工業(株)	投光器 電気ストーブ スピーカー	約200名

地球温暖化対策課 自動車環境グループ
電話 052-954-6217 (ダイヤルイン)

※ 掲載の研修会やイベントは、新型コロナウイルス感染症などにより、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
2022年1月11日発行(第308号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
電話 052-908-5112(ダイヤルイン)

編集後記

めっきり寒い季節になり、我が家ではこたつを出し、ラグを厚手のものに替え、すっかり冬仕様のリビングになりました。こたつは消費電力が少ない上、部屋の空気を乾燥させることがないので、電気代や感染症が気になるこの冬にぴったりの暖房器具です。ラグと床の間に断熱シートを敷くと保温効果が高まり、さらに消費電力を抑えられるそうなので、さっそく試してみようと思います。
(企画・編集チーム)

※ 「環境かわら版」は、環境局 Web ページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>に掲載しています。

「あいちの環境」は右のQRコードからアクセスできます。

※ QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。